



「柿ちっぷす」の誕生

香南くろしお園では切り干し大根や野菜チップスの加工も行っており、

や収穫、加工などを行っています。話を持ちかけたところ、香南くろしお園では、柿を乾燥させてドライフルーツとして加工した経験があるとのことでした。そしてトントン拍子に話が進み、あつという間に施設利用者の皆さんが柿の収穫に来てくれることになりました。皆さん大喜びで収穫を楽しみ、施設では柿を毎日食べることもできたそうです。

「柿ちっぷす」ができるまで



- ① 収穫した柿をきれいに洗う
- ② 皮をむく
- ③ 薄くスライスして並べる
- ④ 機械で高温乾燥
- ⑤ 完成(その後ラッピング)



■香南くろしお園 ☎55-31130

今回ご紹介した「柿ちっぷす」のプレ販売は終了しましたが、本紙の「今月のプレゼント」として香南くろしお園から10袋を提供していただくことができました。詳しくは裏表紙(32ページ)をご確認ください。

なお、「柿ちっぷす」の販売に関するお問い合わせは、香南くろしお園までご連絡ください。



CHECK

「柿ちっぷす」が今月のプレゼント！

香南市の農福連携

農業

福祉

放棄された柿畑から自然栽培の「柿ちっぷす」が誕生！

■農林水産課 ☎50-3015



香我美町の広大な遊休農地(柿畑)

現状耕作されておらず、今後も耕作される見込みのない農地のことを遊休農地(または耕作放棄地)といいます。

昨今、農業人口の減少と高齢化により、遊休農地の増加は全国的な問題となっています。

香我美町上分地区・下分地区では、かつては柿の生産が盛んでした。現在も山の斜面には何百本もの柿の木がありますが、近年の高齢化に伴い耕作放棄されつつあります。

市では、「農地を売りたい・貸したい人」と「買いたい・借りたい人」のマッチング(農地のあわせん)を行ったり、公的機関(農地中間管理機構)



▲香我美町の遊休農地(柿畑)

香南市では、保幼小中の給食に農業や化学肥料を減らして栽培した特別栽培米を提供するなど、人にも環境にも優しい栽培方法に取り組んでいます。そういった取り組みを進める中で、耕作を放棄された柿畑を利用して、新たに農福連携事業を開始することになりました。ここではその経緯と試行的な取り組みをご紹介します。

香南市農林水産課

を通すことにより、安心で効率的に農地の貸し借りを行える取り組みを進めています。

しかし、ひとたび耕作放棄されて年月が経った農地を、再び耕作できる状態に回復するには大変な労力が必要のため、新たな耕作者を見つけることは難しいのが現状です。

一方で、長年耕作放棄された農地は、農業を使用しない「無農薬栽培」や、農薬・肥料の使用を半減させ、環境に配慮して栽培する「特別栽培農作物」への転換に有利であるという側面もあります。

そこで、市は、通常の農地のあわせんに加え、特別栽培農作物の普及の環境として、すでに特別栽培農作物の栽培経験のある方へこの柿畑を紹介することにしました。その結果、南国市で自然農法を指導している生産者さんにたいへん興味を持っていただき、ついにこの広大な柿畑の一部をその方に託すことになりました。



農福連携のはじまり

3,000㎡を超える柿畑は3年以上放棄され、車や人も入れないほど荒れていましたが、生産者さんの奮闘により圃場は改善され、秋にはたくさん柿が大きな実りとなりました。

しかし、昨年から全国的な柿の当たり年だったこともあり、今度は逆に「実りが多すぎて収穫しきれない」と、生産者さんから市へ相談をいただくことになりました。そしてこの相談こそが、農福連携を始めるきっかけとなったのです。

相談を受けた市は、「香南くろしお園」なら、きつとこの「実りすぎた柿」を有効利用するためのノウハウを持っているに違いないと考え、連絡してみることになりました。

「香南くろしお園」は、香我美町にある社会福祉施設です。知的障害のある方が地域社会の中で自分らしく働き、生活していくための支援を行う施設で、施設利用者による農作物の栽培

題がうまくマッチングし、農福連携が実現された瞬間でした。さらに、来年度(令和8年度)からは本格的に事業化をすることも決定しました。また、香南市のふるさと納税返礼品としても、出品に向けて現在準備を進めています。

農業と福祉、それぞれの課題が解決

農福連携は、双方にとってメリットのある取り組みでなければ持続できません。遊休農地の削減、柿畑の有効活用、障害者就労支援事業所でのや

農福連携とは障害のある方が農業で活躍し、就労や生きがい、社会参加を実現する取り組みです。農業の労働力不足解消と、福祉的支援を通じた地域共生社会の実現を目指します。

